

伝えよう、三計と半九の教え

そっけん 息軒だより

百里を行く者は
九十里を半ばとす



令和4年度12・1月号(第35号)

発行 宮崎市安井息軒記念館
管理 NPO 法人 安井息軒顕彰会
理事長 齋藤義輝 館長 川口眞弘
〒889-1605
宮崎市清武町加納甲3378-1
TEL 0985-84-0234
FAX 0985-84-2634
e-mail sokken.yasui@pic.bbq.jp
<https://yasuisokken.jp>

QRコードを読み取ると、記念館のホームページがご覧になれます



毎年 SOKKEN(そっけん)スタジアムでキャンプを張っている オリックスバファローズ優勝 日本一おめでとうございます!!

清武総合運動公園の野球場は平成26年(2014)、「SOKKENスタジアム」と命名され、オリックスバファローズのキャンプ地に指定、翌年春から同球団がキャンプを張るようになりました。

そしてその翌年、平成28年春、宮崎市観光協会から、「2月5日にそのバファローズのルーキーたちが安井息軒記念館(当時はきよたけ歴史館)を訪問し、当館で記念植樹をし、焼き肉を食べ、報道陣の取材を受ける」という連絡が入りました。その際館長に「ルーキーたちに対して講話をしてほしい」というのです。



そのルーキーたちが今にして思うとすごいルーキーたちでした。その中には何と、今や不動の中心選手として、日本一に大きく貢献した吉田正尚選手、日本シリーズで活躍した杉本裕太郎選手等がいました。当館には度々マスコミの取材もありますが、当日は報道陣だけで100名近く来館し、そのほとんどが吉田選手に集中していたのが印象的でした。

選手たちに何を話そうか迷った私でしたが、時間は限られていますので、彼らの今後の活躍に向けて、選手生活に役立つであろ

う息軒の三つの教えについて話をすることにしました。

まず何と言っても、三計塾の由来である「三計の教え」について…

☆ 一日の計は朝にあり 一年の計は春にあり 一生の計は少壮の時にあり

これは、「ことを成すには何事も始めが肝要、しっかり計画を立てて実現に向けて努力せよ」という教えです。この教えの一つ一つは、中国の古典の中に散見されますが、この教えに最も近いものは、中国の『月令広義』の中に見えます。次に息軒の号の一つでもある「半九」の由来となった故事成語について…

☆ 百里の道を行く者は 九十里を半ばとす

これは、「百里の道を行く者は 九十里まで来てもまだまだ半ばである。最後の最後まで気を抜かず努力せよ」という意味です(中国の古典『戦国策』より)。そして三つ目が人生を貫く心意気とも言うべき

☆ 今は音を 忍が岡のほととぎす いつか雲井の よそに名告(なの)らむ

これは江戸、昌平坂学問所で学んだ頃の息軒自作の和歌で、「今はこうして学問所のある忍が岡で鳴いている一羽のほととぎすにすぎないが、いつかは雲井(天下)に自分の名前を知らしめしてやる」という意味です。そして息軒自身がこうした言葉を肝に銘じ、自ら日本一の学者へと上り詰めたとう趣旨の話をさせていただきました。選手たちは神妙な面持ちで、しっかりと受け止めてくれました。(文責：川口)



小学校の遠足・社会見学… 多くの学校のご来館ありがとうございました



木花小

11月は宮崎市内の小学校の遠足や社会見学等を数多く迎え入れました。どの学校も安井息軒について、一生懸命学習していただきました。

- ・ 1日 木花小4年
- ・ 10日 学園木花台小4年
- ・ 11日 恒久小4年
- ・ 15日 江南小4年
- ・ 17日 加納小4年
- ・ 18日 大宮小4年
- ・ 22日 清武小3年



学園木花台小



恒久小



江南小



加納小



大宮小



清武小

安井息軒記念講座④ 令和4年11月12日(土)

「幕末の三計塾」 講師：諸岩則俊氏

顕彰会発行の『安井息軒書簡集』から10通の書簡を取り上げ、安井息軒の国防に対する考え方や欧米列強に対する認識が、黒船来航から開国を経てどのように変化していったかを丁寧に解説していただきました。

これまでの息軒研究は、若山甲蔵著『安井息軒先生』、『故旧過訪・遊従及門録』等の資料とすることが多かったのですが、諸岩氏の研究は書簡という一次資料を中軸とした点で画期的なものです。

他にも、これまで所在不明で内容が分からなかった息軒の『外寇問答』『靖海問答』の紹介や、出身地の唐津市でもようやく顕彰が本格化しはじめた小笠原長行の事績など、とても得るものの多い講座でした。(文責：青山)



今に生きる安井息軒の言葉：息軒思想詮釈（読み直し）

息軒が社会問題について述べたことの中には、現代にも通じるものが少なくありません。このコーナーでは、私なりの解釈を交えて、それを紹介していきたいと思います。第二回目は、こちらです。

『国語』に「山崩れ、川竭きるは、亡国の徴なり」と云へるは、天災のみにあらず。即ち人害にて、人主の山澤の利を貪ぼるより起こる。(『救急或問』22~23頁)

『国語』とは中国の古い歴史書で、『春秋左氏伝』を書いた左丘明の著作とも言われます。その「周語・上」に“山崩れや濁水は国が滅びる予兆だ”とあります。昔の人々は自然災害を政治の乱れに対する「天」の譴責と受け止め、朝廷の人事を刷新するなどして対応しました。その理屈付けとして、伝統的な儒者は君主を監督する「天」やヒトと天地自然とをリンクする「氣」を持ち出してきました。息軒は違います。直前に“山に樹木がないと

山肌が水気を保てなくて山崩れが起き、日照りになると溪流が涸れて濁水となり、大雨が降ると土石が洗い出されて川底が高くなって洪水となる”と説明している、土砂災害・水害・濁水の多くはヒトが材木・薪・炭で儲けようと山林を乱伐したことで生じる「人害」だと喝破し、「所々にて少しづつ伐らしめ、山に水気絶へざる様に為す」工夫が必要だと言います。

近代工業化が始まってもない幕末の時点で、過度な利潤追求による環境破壊は自然災害を引き起こすと警告し、「持続可能な経済活動」を提言していたわけで、その慧眼には驚くばかりです。(文責：青山)

安井息軒記念館バスツアー ～餿肥城とその周辺を巡る～

今年の NHK の大河ドラマをご覧になっている方なら、前半で伊豆の伊東氏が出てきたことはご承知のとおりだと思います。主人公北条義時の祖父に当たるのが伊東祐親すけちかです。その祐親に領地を奪われたあげく、曾我兄弟の仇討ちに遭うのが、同じ伊東一族で餿肥伊東氏のルーツとなる工藤祐経すけつねで、頼朝に尽くした人物です。天正 15 年(1587)伊東祐兵すけたけが戦功により豊臣秀吉から与えられた餿肥は、その後 280 年間伊東氏 5 万 1 千石の城下町として栄えました。

今回は、この餿肥を訪れ、午前中はボランティアガイドの方に餿肥城の大手門や石垣の造りなどの説明、豫章館よしょうかん、松尾の丸などの案内をしていただきました。歴史資料館と小村寿太郎記念館は、日南市の文化財専門官である長友禎治氏と佐藤智文氏に解説をお願いし、内容の濃い見学となりました。

昼食は時間をたっぷりとって自由に行動していただき、午後からは、振徳堂、願成就寺、滄洲墓碑を当館職員の説明で巡りました。まず振徳堂では現在も残っている素読の間や小倉処平顕彰碑などを見て、願成就寺に向かいました。願成就寺では、ご住職の川崎光俊氏から思いもかけず境内横墓地の安井の姓の墓碑をご案内いただきました。これは後で調べたところ息軒の孫安井小太郎あかつらほういんによる撰文が刻まれた墓碑でした。

ところで、願成就寺といえば「赤面法印」と呼ばれた第 5 世祐遍法印ゆうへんほういんが有名で、ご存じの方もおられるでしょう。美貌美声ゆえに多くの女性に言い寄られ、それを修行の妨げになると自ら大釜の熱湯を浴びて無残な形相になり修行に専念したといわれ、後に多くの人々の尊敬を集めた名僧です。

最後は、息軒の父安井滄洲の墓碑で、すぐ横に安井家先祖の墓、5 歳で亡くなった息軒の次女三保子の墓が並んでいます。ここは、下見に行った時点では、見学は不可能と思われるほど伐採された竹が何本も墓地を覆い雑草が繁茂し、まったく碑文も読めないほどの状況になっていました。それを当館で講師をしていただいている那良則人氏のご厚意で見学できる状態にまできれいにしてくださいました。感謝しながらの見学となりました。帰着は予定より遅れましたが、参加された方々には温かい言葉をいただくなど満足していただけたバスツアーとなりました。(文責：長野)



■お佐代さんを偲ぶ会

息軒の妻お佐代さんを偲び、献花や呈茶を行います。
参加希望者はご連絡ください。

期 日：令和 5 年 1 月 7 日(土) 10:00~11:00

■安井息軒顕彰小学生かるた大会予選

期 日：令和 5 年 1 月 7 日(土) 午後～

■冬の企画展「迎えた明治 輝きを増す安井息軒 そして今」

明治になっても名声の衰えない息軒に、その著作や出版物からスポットを当てます。

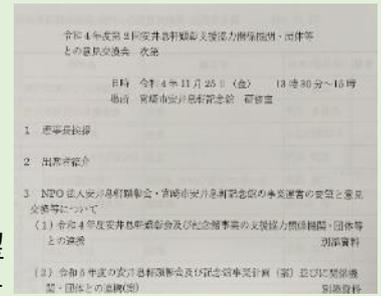
期 日：令和 5 年 1 月 14 日(土)～3 月 26 日(日)

1 月～2 月の行事予定



顕彰会・記念館事業に関する関係・機関団体意見交換会

11月25日(金)の午後、顕彰会と宮崎市内13の関係機関・団体等代表者による、安井息軒顕彰支援協力関係機関・団体等意見交換会を開催しました。席上令和4年度の各種事業の連携概要、結果及び経過報告、令和5年度の事業計画と連携の提案説明を行いました。その後令和3年度の26事業に係る外部評価委員による評価の結果報告及び評価方法等の説明を行い、活発な要望や意見交換等が行われました。結果を今後の事業運営等に反映してまいります。



令和4年度第3回安井息軒梅まつり実行委員会の開催

11月26日(土)、顕彰会他8関係機関・団体等で構成される実行委員15名が参加して、2月11日のまつり当日に向けて、ステージやステージ以外でのプログラム、会場レイアウト、事業内容(含むスタッフ規模)、収支予算案及びチラシ等についての説明や協議を行いました。コロナ感染症対策を徹底しながら実行委員会や関係団体・機関団体と連携して取り組んでまいります。



安井息軒記念館施設管理運営の指定管理者候補者に選定されました

11月10日付けで、特定非営利活動法人安井息軒顕彰会が宮崎市安井息軒記念館の管理運営を行う指定管理予定候補者として選定されたという内容の「指定管理に関するお知らせ」が、宮崎市のホームページに掲載されました。12月の市議会で指定管理者として承認されれば、安井息軒顕彰会は、令和5年度から9年度までの5か年間、当記念館の管理運営を継続して行うことになります。

みやざき三計塾の開講

10月2日(土)から6回シリーズで息軒の著作『論語集説』^{がくし}學而第一を、宮崎大学の山元宣宏先生^{のぶひろ}を講師に解説しています。同講座は日本漢字能力検定協会との共催による講座となっています。本年度は「子曰 父在觀其志 父没觀其行」他に関する講義です。毎回40~80歳代の男女がご参加され、質疑応答も活発です。本年度で5回目となりますが、令和5年度も開講予定です。



<引き続き新型コロナウイルス感染拡大防止対策にご協力ください>

- ・来館時はマスクの着用をお願いします。
- ・正面玄関に消毒液を設置しています。手指の消毒をお願いします。
- ・入館時の検温にご協力ください。



顕彰会会員大募集!!

- ☆ 当顕彰会では新規会員を募集しています。
- ☆ お問い合わせは右記事務局までお願いします。

☆ みなさまからお預かりしました会費は、情報紙等お知らせの郵送の他、自主事業の財源として活用されます。納入へのご協力をよろしくお願いします。

年会費

- 一般会員 2,000円
- 賛助会員 1,000円
- 学生会員 500円
- 団体会員 5,000円(1口)
- ファミリー会員 1,000円

NPO法人 安井息軒顕彰会

事務局

〒889-1605 宮崎市清武町加納甲 3378-1

(宮崎市安井息軒記念館内)

電話：0985-84-0234 携帯：080-8589-0569

e-mail：yasuisokken@yahoo.co.jp

